

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-198214
(P2006-198214A)

(43) 公開日 平成18年8月3日(2006.8.3)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 D 3/00 (2006.01)	A 4 7 D 3/00	3 B 0 5 3
A 4 7 B 17/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00 A	3 B 0 6 0
A 4 7 B 31/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00 D	
A 4 7 B 83/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00 Z	
A 4 7 D 1/00 (2006.01)	A 4 7 B 31/00 B	

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 13 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2005-13894 (P2005-13894)
(22) 出願日 平成17年1月21日 (2005.1.21)

(71) 出願人 505000675
横田 智美
京都府京都市山科区柳辻東濃25番地 イ
ーグルコート柳辻十条1102

(74) 代理人 100068032
弁理士 武石 靖彦

(74) 代理人 100080333
弁理士 村田 紀子

(74) 代理人 100115222
弁理士 徳岡 修二

(74) 代理人 100124796
弁理士 重本 博充

(74) 代理人 100125586
弁理士 大角 菜穂子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 乗物型家具

(57) 【要約】

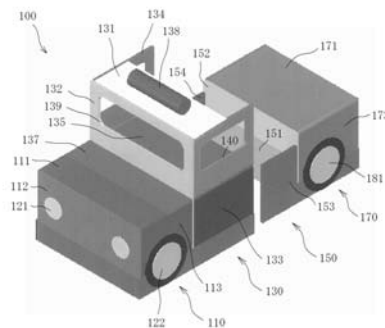
【課題】

子供が喜んで机の前に座るような形状を有し、かつ子供部屋を子供が好むような雰囲気にする機能を有する学習机および椅子を備えた乗物型家具を提供する。

【解決手段】

家具全体を乗物形状とし、該乗物の運転席にあたる部分に、前方に向かって使用者が座って利用できる、机部130と椅子部150とを設ける。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

乗物形状の家具であって、該乗物の運転席に、前方に向かって使用者が座って利用できる、学習機と椅子とが設けられていることを特徴とする乗物型家具。

【請求項 2】

前記家具の少なくとも一部が収納庫となっていることを特徴とする請求項 1 に記載の乗物型家具。

【請求項 3】

前記学習機の周囲に、前記使用者と対面または並んで使用できる少なくとも1つの補助机が設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の乗物型家具。

10

【請求項 4】

前記乗物は、自動車、新幹線、電車、トラック、消防車またはバスであり、該乗物の前方に前記学習機と対面するように補助机が折り畳み可能に設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の乗物型家具。

【請求項 5】

前記乗物は乗用車またはパトカーであり、該乗物のエンジン室部分を移動させると、そのボンネットが補助机として使用できることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の乗物型家具。

【請求項 6】

前記乗物は飛行機であり、その翼が補助机として使用できることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の乗物型家具。

20

【請求項 7】

前記乗物は、自動車、新幹線、電車、トラック、消防車またはバスであり、その荷台または客車部分の上方にベッドが形成されていることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の乗物型家具。

【請求項 8】

前記ベッドの下方に、収納庫が形成されていることを特徴とする請求項 7 に記載の乗物型家具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

30

【0001】

本発明は、主に子供が使用する、学習機および椅子を備えた乗物型の家具に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来子供用の学習機として、子供が喜んで机の前に座るように、天板上の棚部に各種キャラクターを描いたパネルを配置したものや、水槽を設けて昆虫や金魚等を観察できるようにしたもの（特許文献 1 参照）等が存在する。

【特許文献 1】特開平 8 - 182539 号公報

【発明の開示】

40

【発明が解決しようとする課題】**【0003】**

しかしながら、これらの学習機は、その一部に子供を惹きつける要素が設けられているのみであって、机全体としては一般的な学習機と何ら変わらないため、子供を惹きつける力が乏しく、比較的早期に飽きさせてしまうという問題点を有していた。更に、これらの学習機には、家具全体で子供部屋を子供が好むような楽しい雰囲気には飾るといった機能はほとんどなかった。

【0004】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、子供が喜んで机の前に座るような形状を有し、かつ子供部屋を子供が好むような雰囲気に飾る機能を有

50

した学習机および椅子を備えた乗物型家具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記課題を解決するために本発明は、乗物形状の家具であって、該乗物の運転席に、前方に向かって使用者が座って利用できる、学習机と椅子とが設けられていることを特徴とするものである。

ここで、前記家具の少なくとも一部が収納庫となっているのが好ましい。

【0006】

また、上記構成において、前記学習機の周囲に、前記使用者と対面または並んで使用できる少なくとも1つの補助机が設けられているのが好ましい。

10

【0007】

また、上記構成において、前記乗物は、自動車、新幹線、電車、トラック、消防車またはバスであり、該乗物の前方に前記学習机と対面するように補助机が折り畳み可能に設けられているのが好ましい。

また、前記乗物は乗用車またはパトカーであり、該乗物のエンジン室部分を移動させると、そのボンネットが補助机として使用できるようになっていてもよい。ただし、ここでの乗用車およびパトカーは、エンジン室が運転席の前方に張り出して設けられているタイプのものを意味している。

また、前記乗物は飛行機であり、その翼が補助机として使用できるようになっていてもよい。

20

【0008】

また、上記構成において、前記乗物は、自動車、新幹線、電車、トラック、消防車またはバスであり、その荷台または客車部分の上方にベッドが形成されているのが好ましい。

更に、前記ベッドの下方に、収納庫が形成されているのが好ましい。

【発明の効果】

【0009】

上記のように構成された本発明の学習机および椅子を備えた乗物型家具によれば、全体が飛行機や車両等の乗物を模した形状とされ、その乗物の運転席にあたる部分に、前方に向かって使用者が利用できる、学習机および椅子が設けられているため、子供が乗物に乗る感覚で楽しく机の前に座ることができ、かつ子供部屋を子供が好むような雰囲気にと飾ることができる。

30

【0010】

なお、上記家具の少なくとも一部に収納庫を設けた場合は、部屋を家具全体で楽しい雰囲気に飾りつつ、収納スペースを十分に確保することができる。また、上記家具を自動車、新幹線、電車、トラック、消防車またはバス形状とし、その荷台または客車部分の上方にベッドを設けた場合は、就寝スペースを十分かつ効率的に確保することができる。

【0011】

また、上記学習機の周囲に、その使用者と対面または並んで使用できる少なくとも1つの補助机を設けた場合は、子供が乗物に乗った感覚で楽しく学習等しているのを、両親、兄弟姉妹または家庭教師等の補助者がその雰囲気を壊すことなく支援することができる。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、図面を参照して本発明の好ましい実施形態につき説明する。なお、以下の各実施形態においては、家具が形状を模している各乗物の進行方向を基準として前後左右の方向付けを行い、進行方向の寸法を長さ、水平面内で進行方向に垂直な方向の寸法を幅、更に水平面に垂直な方向の寸法を高さとして説明する。

【0013】

[第1実施形態(パトカー型)]

まず、家具全体でパトカーの形状を模した場合について、図1および図2を用いて説明する。図1は、パトカーの形状を模した本発明にかかる家具100の斜視図であり、図2は

50

、パトカー型家具 100 の幅方向中央の位置における側断面図である。図 1 および図 2 に示すように、パトカー型の家具 100 は、前側から順に、パトカーのエンジン室を表現した形状である前側収納部 110、運転室を表現した形状である机部 130 と椅子部 150、および後部トランク室を表現した形状である後側収納部 170 から構成されている。

【0014】

机部 130 は、図 1 および図 2 に示すように、木製の天板 131、前板 132 および側板 133、134 を備えており、後方および下方側に開き、かつ上方側に一部開いた箱状に形成されている。机部 130 の高さ方向略中央の位置には、側板 133、134 および前板 132 に亘る木製の学習机天板 135 が略水平に設けられており、使用者が学習その他の作業を行うのに十分な配置および大きさとされている。この学習机天板 135 の下面側には、木製の引出部 136 が形成されている。更に、学習机天板 135 と高さ方向位置が略一致する位置に、木製の補助机天板 137 が、前板 132 を介して前向きかつ略水平に突出して設けられている。この補助机天板 137 は、学習机天板 135 と幅が略一致し、かつ後述する前側収納部 110 の長さの略半分の長さとなっている。天板 131 は、机部 130 の前側上部を覆うように配置されており、その長さは学習机天板 135 の長さの略半分とされている。更に天板 131 の上面中央には、パトカーの赤色回転灯を表現するように、木製かつ円柱状の化粧部材 138 が設置されている。前板 132 および側板 133、134 の上部には、パトカーの運転室の前窓および横窓を表現するように、切欠孔 139 および 140 が設けられている。なお、両机天板 135、137 の上面を照らすように、前板 132 の内面上部には照明器具 141 が備え付けられている。

10

20

【0015】

前側収納部 110 は、図 1 および図 2 に示すように、木製の天板 111、前板 112、側板 113、114 および底板 115 を備えており、後方側に開き、かつ上方側に一部開いた箱状に形成されている。底板 115 にはキャスター 116 が備え付けられており、前側収納部 110 は容易に移動可能となっている。天板 111 と底板 115 との略中間位置には木製の仕切板 117 が設けられており、内部の収納スペース 118 は上側収納スペース 119 と下側収納スペース 120 とに仕切られている。天板 111 は、机部 130 における補助机天板 137 と高さ方向位置および幅が略一致する。更に、天板 111 の長さは、前側収納部 110 の長さの略半分の長さとなし、上側収納スペース 119 の前側上部を覆っている。前板 112 および側板 113、114 の外面には、パトカーのヘッドライトおよび前輪を表現するように、木製かつ円形の化粧板 121 および 122 がそれぞれ貼付されている。

30

【0016】

上記のように形成された前側収納部 110 は、机部 130 の真正面に間隔をあけずに配置され、天板 111 と、机部 130 における補助机天板 137 とによって、上側収納スペース 119 はその上方を塞がれている。

【0017】

椅子部 150 は、図 1 および図 2 に示すように、木製の座板 151、背板 152 および側板 153、154 から構成されている。座板 151 の高さ方向位置および長さは、使用者がそこに座って机部 130 における学習机天板 135 で作業するのに適した高さおよび長さとなっている。座板 151 の幅を規定する側板 153、154 の間隔は、机部 130 の側板 133、134 の間隔と略一致するように形成されている。側板 153、154 は、座板 151 の長さと略同一の長さを有するとともに、座板 151 の高さ方向位置よりも高い位置で終端する高さを有している。背板 152 は、座板 151 の幅と略同一の幅を有するとともに、座板 151 に着座した者の背もたれとなるのに適した高さを有している。

40

【0018】

上記のように形成された椅子部 150 は、使用者が座板 151 に座って机部 130 における学習机天板 135 上で作業し得るように、机部 130 の真後ろに間隔をあけて配置されている。

【0019】

50

後側収納部 170 は、図 1 および図 2 に示すように、木製の天板 171、前板 172、側板 173、174、底板 175 および後板 176 を備えた箱状に形成されており、内部に収納スペース 177 を有している。底板 175 にはキャスター 178 が備え付けられており、後側収納部 170 は容易に移動可能となっている。天板 171 は、椅子部 150 における背板 152 と幅が略一致するとともに前側収納部 110 と長さが略一致し、背板 152 の上端と略一致する高さに配置されている。更に天板 171 は、後板 176 と蝶番 179 によって開閉可能に固定されている。後板 176 および側板 173、174 の外面には、パトカーのテールライトおよび後輪を表現するように、木製かつ円形の化粧板 180 および 181 がそれぞれ貼付されている。

【0020】

10

上記のように形成された後側収納部 170 は、椅子部 150 の真後ろに間隔をあけずに配置されている。

【0021】

以上のように構成したパトカー型家具 100 では、使用者（特に子供）は、パトカーに乗車する感覚で椅子部 150 における座板 151 に座ることができ、机部 130 における学習机天板 135 上で楽しく学習等を行うことができる。また、パトカー型家具 100 は、全体で子供部屋を楽しい雰囲気にする効果を有しているとともに、従来の子供用学習机のように部屋の壁面に向かって配置するのみでなく、例えば部屋の中央に違和感なく配置することができ、配置のバリエーションを増やすことができる。

【0022】

20

また、前側収納部 110 を図 2 B に示すように前方に移動させると、両親や兄弟姉妹等の補助者が仕切板 117 を座板代わりにして着座することができ、パトカーに乗車した気分楽しく学習等している子供を、その雰囲気を壊すことなく対面しながら支援することができる。

【0023】

また、前側収納部 110 における収納スペース 118 および後側収納部 170 における収納スペース 177 には、学習道具や遊び道具等を収納することができる。また、机部 130 における学習机天板 135 上の前方部分および側方部分に、前板 132 または側板 133、134 の内面を利用して教科書や参考書等の書籍を並べることができる。

【0024】

30

[第2実施形態（汽車型）]

次に、家具全体で汽車の形状を模した場合について、図 3 および図 4 を用いて説明する。図 3 は、汽車の形状を模した本発明にかかる家具 200 の斜視図であり、図 4 A は、汽車型家具 200 の側面図であり、図 4 B は、汽車型家具 200 の幅方向中央の位置における側断面図である。図 3 および図 4 に示すように、汽車型の家具 200 は、前側から順に、汽車の機関車を表現した形状である机部 230 と椅子部 260、および客車を表現した形状である後側収納部 270 から構成されている。

【0025】

机部 230 は、図 3 および図 4 に示すように、木製の天板 231、前板 232、および側板 233、234 を備えており、後方および下方側に開き、かつ上方および側方側に一部開いた箱状に形成されている。側板 233、234 は、家具 200 の左側から見た場合、机部 230 の高さ方向略中央の位置において折れ曲がる L 形状となっており、天板 231 は、その上端を覆うように配置されている。また、上記折れ曲がり位置において、側板 233、234 および前板 232 に亘る木製の学習机天板 235 が略水平に設けられており、使用者が学習その他の作業を行うのに十分な配置および大きさとされている。この学習机天板 235 の下面側には、木製の引出部 236 が形成されている。側板 233、234 の上部には、汽車の運転室の横窓を表現するように、切欠孔 237 が設けられているとともに、その外面には、汽車の駆動輪を表現するように、木製かつ円形の化粧板 238 が貼付されている。前板 232 は、後述する孔 245 と略同一形状であって、学習机天板 235 の高さ方向位置を下端とする前窓 242 を有している。

40

50

前板 2 3 2 の前側上方には、汽車の煙室および煙突を表現するように、木製であって円形および矩形の箱状である突出部 2 4 0 および 2 4 1 が設けられている。突出部 2 4 0 は、円形の第 1 の前板 2 4 2 および第 2 の前板 2 4 3、ならびに周板 2 4 4 から構成されており、机部 2 3 0 の幅方向略中央の位置であって学習机天板 2 3 5 の高さ方向位置を跨ぐように配置されている。円形の第 1 の前板 2 4 2 は、それと同心の円弧を有するトンネル型の孔 2 4 5 を有しており、その水平部分は、学習机天板 2 3 5 の上面と高さ方向位置が略一致している。第 2 の前板 2 4 3 は、孔 2 4 5 を塞ぎ得る大きさとしてされており、孔 2 4 5 の円弧と同心に配置されている。第 2 の前板 2 4 3 は更に、孔 2 4 5 の水平部分と略一致する位置で上下 2 つに分割されており、その下側であって第 1 の前板 2 4 2 と固定されている基板 2 4 6 と、その上側であって基板 2 4 6 と蝶番（不図示）によって固定されているとともに前方に揺動可能である補助机天板 2 4 7 とからなっている。すなわち、この補助机天板 2 4 7 は折り畳み可能であり、直立状態で第 1 の前板 2 4 2 に固定され得るとともに、前方に揺動してその後面が略水平となる位置でも固定され得る。従って、補助机天板 2 4 7 を前方に揺動させて略水平にすると、補助者がそこで学習支援を行うことができる。また、突出部 2 4 0 の内部における、孔 2 4 2 および孔 2 4 5 の水平部分と高さ方向位置が略一致する位置に、第 1 の前板 2 4 2、周板 2 4 4 および前板 2 3 2 に亘る補助天板 2 4 8 が配置されている。

10

突出部 2 4 1 は、後方および下方側に開いた箱状に形成されており、机部 2 3 0 の幅方向略中央の位置であって突出部 2 4 0 の周板 2 4 4 上に、直立して配置されている。また、前板 2 3 2 の前側下方には、汽車の排障器を表現するように、木製かつ後方に開いた箱状の突出部 2 4 9 が設けられている。

20

更に、汽車のノーズ部を表現するように、突出部 2 4 0 と突出部 2 4 1 とに亘る、木製かつ箱状の突出部 2 5 0 が設けられている。突出部 2 5 0 の下部には、汽車のヘッドライトを表現するように、木製かつ円形の化粧板 2 5 1 が貼付されている。

なお、両机天板 2 3 5、2 4 7 および補助天板 2 4 8 の上面を照らすように、前板 2 3 2 の内面上部には照明器具 2 5 2 が備え付けられている。

【 0 0 2 6 】

椅子部 2 6 0 は、図 3 および図 4 に示すように、木製の座板 2 6 1、背板 2 6 2、および側板 2 6 3、2 6 4 を備えており、実施形態 1 における椅子部 1 5 0 と同様に形成されている。椅子部 2 6 0 は更に、座板 2 6 1 上であって幅方向略中央の位置に仕切板 2 6 5 を備えており、座席が左右 2 つに仕切られている。また、それぞれの座席における座板 2 6 1 および背板 2 6 2 に対して、クッション部材 2 6 6 が配置されている。

30

【 0 0 2 7 】

上記のように形成された椅子部 2 6 0 は、実施形態 1 における椅子部 1 5 0 と同様に配置されている。

【 0 0 2 8 】

後側収納部 2 7 0 は、図 3 および図 4 に示すように、木製のベッド 2 7 1、ならびにクローゼット 2 7 2、2 7 3 およびチェスト 2 7 4、2 7 5 から構成されており、椅子部 2 6 0 の幅と略一致する幅を有するとともに、ベッド 2 7 1 の下部スペース右側にクローゼット 2 7 2、2 7 3、左側にチェスト 2 7 4、2 7 5 が配置されている。

40

ベッド 2 7 1 は、その下部にクローゼット 2 7 2、2 7 3 およびチェスト 2 7 4、2 7 5 を配置し得る高さとしてされている。

クローゼット 2 7 2、2 7 3 は、図 4 B に示すように、ベッド 2 7 1 の下部に納まるような高さを有するとともに、ベッド 2 7 1 の長さおよび幅の略半分の長さおよび幅を有している。このクローゼット 2 7 2、2 7 3 は、上部および下部に、開き戸および上下 2 段の引き出し部を備えており、それぞれ内部に収納スペースを有している。

チェスト 2 7 4、2 7 5 は、図 3 および図 4 A に示すように、クローゼット 2 7 2、2 7 3 の高さの略半分の高さを有するとともに、ベッド 2 7 1 の長さおよび幅の略半分の長さおよび幅を有している。このチェスト 2 7 4、2 7 5 は、底部にキャスター 2 7 7 を備えており、容易に移動可能となっている。また、チェスト 2 7 4、2 7 5 は、上下 3 段の引

50

き出し部を備えており、それぞれ内部に収納スペースを有している。更に、チェスト 274、275 の引出し方向手前の下方には、車両の転輪を表現するように、木製かつ円形の化粧板 276 が貼付されている。

【0029】

上記のように形成された後側収納部 270 は、椅子部 260 の真後ろに近接して配置されている。

【0030】

以上のように構成した自動車型家具 200 では、実施形態 1 と同様の学習意欲惹起機能、学習支援機能、および装飾機能を有している。更に、クローゼット 272、273 およびチェスト 274、275 を有するとともにその上方にベッド 271 を有しているため、部屋を家具全体で楽しい雰囲気飾りつつ、収納および就寝スペースを十分かつ効率的に確保することができる。

10

【0031】

[第 3 実施形態 (プロペラ式飛行機型)]

次に、家具全体でプロペラ式飛行機の形状を模した場合について、図 5 および図 6 を用いて説明する。図 5 は、プロペラ式飛行機の形状を模した本発明にかかる家具 300 の斜視図であり、図 6 A および図 6 B は、プロペラ式飛行機型家具 300 の平面図および側面図である。図 5 および図 6 に示すように、プロペラ式飛行機型の家具 300 は、前側から順に、プロペラ式飛行機のプロペラ部を表現した形状である前側収納部 310、主翼および操縦室を表現した机部 330 と椅子部 350、および尾翼部を表現した形状である後側収納部 370 から構成されている。

20

【0032】

机部 330 は、図 5 および図 6 に示すように、木製の天板 331、前板 332 および側板 333、334 を備えており、後方および下方側に開き、かつ天板 331 が左右に張り出した箱状に形成されている。天板 331 は、中央部分である学習机天板部 335 と、側板 333、334 から張り出した部分である補助机天板部 336 とからなり、学習机天板部 335 は、後述する椅子部 350 に着座する使用者が学習その他の作業を行うのに十分な配置および大きさとなっている。この学習机天板部 335 の下面側には、実施形態 1 および 2 と同様に木製の引出部 337 が形成されている。天板 331 上の前方には、前板および側板からなり、プロペラ式飛行機の風除け窓を模した本立部 338 が設けられている。補助机天板部 336 は、プロペラ式飛行機の主翼を模した形状とされ、補助者が使用者の作業を支援するのに十分な大きさとなっている。

30

側板 333、334 の外面下部には、プロペラ式飛行機の前輪を表現するように、木製かつ円形の化粧板 339 が貼付されている。

【0033】

前側収納部 310 は、図 5 および図 6 に示すように、円形の前板 311 および後板 312 を備えており、それらの間であって高さ方向中央の位置に略水平に設けられた仕切板 313 を有している。仕切り板 313 の上部は開放された収納部 314 が設けられ、下部は開閉式の収納部 315 が設けられている。前板 311 の前方には、プロペラ翼を模した形状である時計部 316 が設けられており、2 枚のプロペラ板 317 および 318 が、それぞれ時計針および分針となっている。

40

【0034】

上記のように形成された前側収納部 310 は、机部 330 における前板 332 の前側であって幅方向略中央の位置に配置されている。

【0035】

椅子部 350 は、図 5 および図 6 に示すように、木製の座板、背板および側板から構成されており、使用者一人がそこに座って机部 330 における学習机天板部 335 で作業するのに適した高さ、長さおよび幅とされている。更に、両側板の外面には、後方に向かって尻上がりとなるプロペラ式飛行機の機体を表現するべく、ペイント 351 が施されている。

50

【0036】

上記のように形成された椅子部350は、実施形態1と同様に配置されている。

【0037】

後側収納部370は、図5および図6に示すように、木製の天板371、前板372、側板373、374、底板375、および後板376からなり、後方に向かって先細りとなる箱状に形成されている。天板371は、プロペラ式飛行機の垂直尾翼および水平尾翼を表現する化粧板377および378を有しているとともに、箱内部の収納スペースの上方を着脱自在に塞いでいる。側板373、374の外面には、後方に向かって尻上がりとなるプロペラ式飛行機の機体を表現するべく、ペイント379が施されている。

【0038】

上記のように形成された後側収納部370は、椅子部350の真後ろに間隔をあけて配置されている。

【0039】

以上のように構成したプロペラ式飛行機型家具300では、実施形態1と同様の機能を有している。更に、2枚のプロペラ板317および318が時計の時針および分針となっているため、家具全体で部屋を飾るとともに時間表示をすることができる。

【0040】

以上、具体例を例示しつつ、本発明の実施の形態について説明したが、本発明はこれらの具体例に限定されるものではない。例えば、家具全体が模する乗物は、人が乗ることができる人工の物であればよく、新幹線車両等の鉄道車両、ならびに乗用車、救急車およびトラック等の自動車、ならびにモーターボート等の船舶、ならびにジェット機、ヘリコプタおよび飛行船等の飛行機、ならびにスペースシャトル等の宇宙船、ならびに農業機械および建設機械等の特殊車両であってもよい。更に、例えばタイムマシン等の空想上の乗物であってもよい。また、前述の実施形態では家具を構成する材料は木材であったが、軽金属材料等、種々の材料を使用することができる。

また、補助机天板は固定式または折り畳み式であったが、スライド式または着脱自在式であってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0041】

【図1】本発明にかかるパトカー型家具の斜視図である。

【図2】本発明にかかるパトカー型家具の、幅方向中央の位置における側断面図である。

【図3】本発明にかかる汽車型家具の斜視図である。

【図4】本発明にかかる汽車型家具の側面図および幅方向中央の位置における側断面図である。

【図5】本発明にかかるプロペラ式飛行機型家具の斜視図である。

【図6】本発明にかかるプロペラ式飛行機型家具の平面図および側面図である。

【符号の説明】

【0042】

100 パトカー型家具

110 前側収納部

130 机部

150 椅子部

170 後側収納部

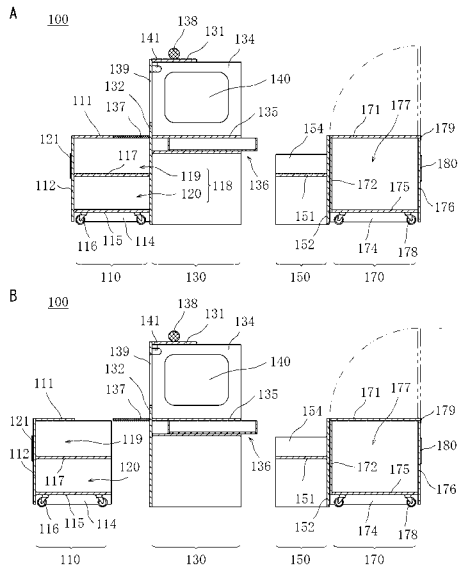
10

20

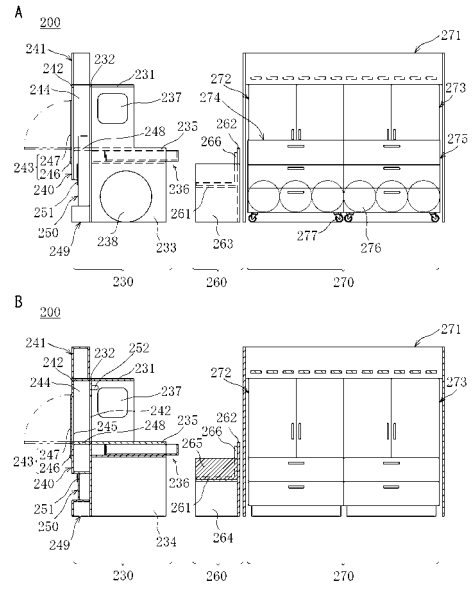
30

40

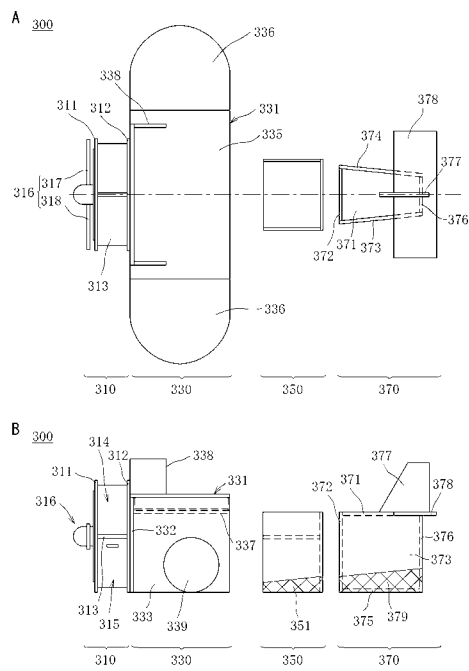
【 図 2 】



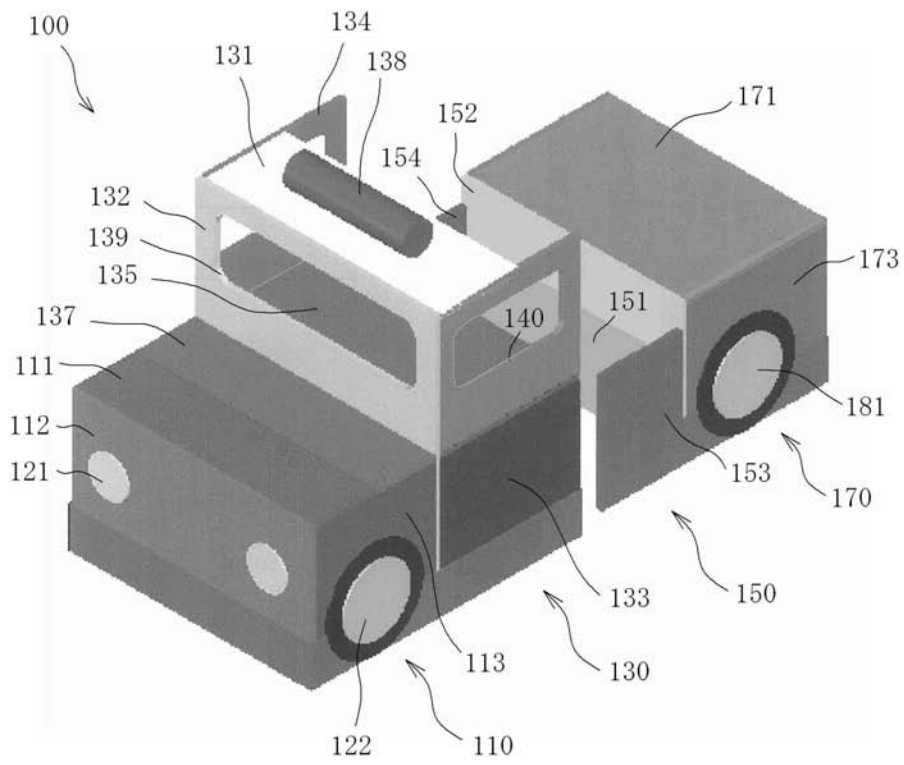
【 図 4 】



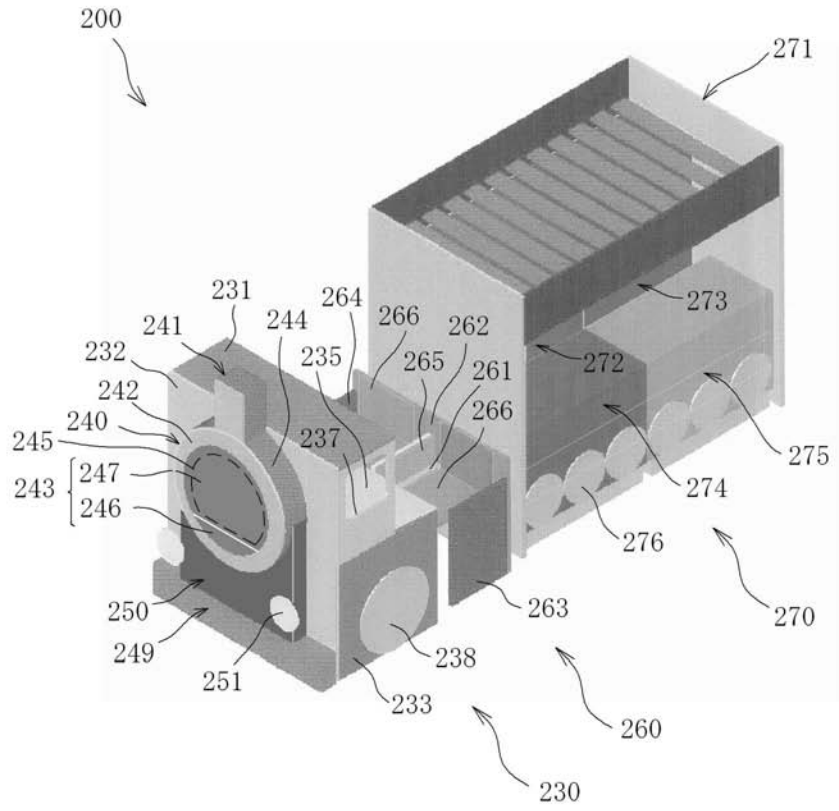
【 図 6 】



【 図 1 】



【 図 3 】



フロントページの続き

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード(参考)
A 4 7 D 7/00 (2006.01)	A 4 7 B 83/00	
	A 4 7 D 1/00	
	A 4 7 D 7/00	

(72)発明者 横田 満康

京都府京都市山科区榎辻東濱25番地 イーグルコート榎辻十条1102

Fターム(参考) 3B053 SA01 SD01 SE01

3B060 AC01